

NPO法人 大谷石研究会

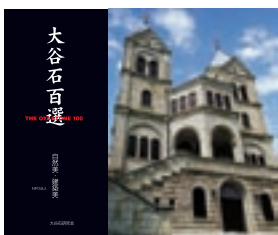
大谷石の魅力を全国のみなさんへお伝えする大谷石研究会の広報誌



栃木県指定有形文化財  
「屏風岩石蔵」  
構造 積石造  
建築年 西蔵(座敷蔵) 1908年  
東蔵(穀蔵) 1912年



屏風岩の石蔵についての詳しい解説は、全国にある大谷石建造物を100集めた「大谷石百選 自然美・建築美」に掲載されています。お求めは、NPO法人大谷石研究会事務局＝TEL028(652)0005へお問い合わせ下さい



企画・出版 NPO法人 大谷石研究会  
制作協力 NHK出版 定価 2000円

## 屏風岩石材石蔵等の文化財指定について

岡田 義治

NPO法人大谷石研究会顧問  
(社)栃木県建築士会会長

屏風岩石材の石蔵(西蔵、東蔵)と棟と西蔵の棟札一枚が栃木県指定有形文化財に指定され、教育委員会告示第11号(平成18年8月22日)により告示されました。

この建物については、すでに十数年前から文化財の候補としてリストアップされておりましたが、平成17年に、所有者から「文化財として保存したい」という意思表示があり、それを受けて同年6月20日に県と宇都宮市の文化財関係者が調査・検討会議を行いました。

私は、優れた意匠と積み石造の蔵では初期の建築であり、石蔵のモデルとなった、と考えられることから、国の重要文化財の指定申請を提案しましたが、異論がありました。そこで、県の指定に向けて、あらためて実測図や調書の作成を行い(同8月1日)、同年11月9日付で宇都宮市教育長より県の教育長宛に指定申請書が送達されました。そして、平開催された県文化財保護審議会において、県教育長に指定の答申がなされました。

## 大谷石昔ばなし...2

### 「よみがえった石屋根」

大谷街道が文挟方面と分かれて大きく曲がる手前、道の右側奥に端整な茅葺きの民家がある。宇都宮市認定文化財の渡辺家住宅である。渡辺家は江戸時代荒針村の名主を務めた家柄であり、明治期以降も農業を基本としながらも地元の有力な地主層として活躍し、昭和期には石材業を営ん

だ。その渡辺家の表門の石屋根がこの度、甍った。門の建築年は、明白ではないが、柱に刻まれた幕末の刀傷とも思われるものが古さを物語っている。大正年間に修復されたといい、約80年間持ちこたえてきたが、風化して形がゆがんだ。幸い門も認定文化財であったがために市から補助金が出た。栃木県独特の石屋根がよみがえるのはありがたい。歴史を大切に、これからも宇都宮市には頑張ってもらいたい。

夢を形にして50年  
確かな技術で未来を創る



横山建設株式会社

本社 宇都宮市吉野1-2-1  
電話 028-633-0211 FAX 028-634-5374



〒320-0011 宇都宮市富士見が丘3-19-28  
TEL 028-625-2130  
FAX 028-621-0519  
e-mail SKDJ@tech.email.ne.jp  
http://www.ne.jp/asahi/shiodarch/design/

(株) シオダ建築デザイン事務所

モテナス芳賀 2007.11